



## 教師と保護者の連携による地域に根ざした学校づくり

— 一方部PTA活動の活性化を通して —

福島県立湯本高等学校教頭  
(前) 福島県立安達高等学校教頭

御代田 公 男

### 1. 研究の趣旨

本校は、現在、重大な岐路に立っている。安達管内の中学卒業生は、福島地区と郡山地区の高校に進学するため流出し、本校への入学者は、かつての「安達」への入学者と質的に変わってきている。

本校の問題点は、次のとおりである。

- (1) 進学率が年々低下してきている。
- (2) 中途退学者も発生している。
- (3) 部活動も概して停滞している。

このような状況を踏まえ、教職員集団が共通認識に立ち、一体となって「新生安達」「再生安達」を目指し、次のようなことから掲げ取り組んできた。

- (1) 基本的生活習慣の確立
- (2) 推薦入学制の導入と推薦枠の拡大
- (3) 特色ある学級編成
- (4) 習熟度別学習の導入
- (5) 教科書持ち帰り運動の推進
- (6) 部活動の隆盛化

しかし、本校に入学してくる生徒の個性と能力を伸ばし、豊かな人間性の開花を保障し、本校教育目標の達成を図るには、一人学校の努力だけでは実現できるものではない。保護者の期待と地域社会の支援に応えるためには、「保護者と本校教師集団」が協同して教育の事業に当たらなければならないと考える。

この協同事業の推進は、本校教育の在り方を、安達管内の地域住民との人間関係を、より強固で豊かなものとし、人と郷土の自然文化との結びつきを強める機会と思われる。

しかしながら、本校には、地域の保護者及び住民との結びつきを深めるための方部PTAが、組織化されていないという現況にある。

このことから、「方部PTA活性化にどう取り組むか」の研究実践を行うことにより、地域に根ざした学校づくりが可能になるとの認識に立ち、本主題を設定した。

### 2. 研究の見通し

方部PTAの組織づくりを行い、教師と保護者が一体となって、方部PTAの活性化に努めれば、教育目標の具現化が図られ、地域社会に貢献できる学校となるであろう。

### 3. 研究の方法と対象

- (1) 研究の方法 (略)
- (2) 研究の対象 (教職員・PTA92名)

### 4. 研究の内容と推進計画 (略)

### 5. 研究の概要と考察

#### (1) 校内研究組織

平成3年5月総務委員会開催、PTA主催による学校開放講座、PTA方部会等について協議、PTA方部会を早急に組織化し明文化すべきであるとの意向に